

大阪総合体育大会バスケットボール大会に向けた感染防止ガイドライン

大阪中学校体育連盟
バスケットボール部

1. はじめに

本ガイドラインは大阪中学校体育連盟より出された『主催大会開催に係る感染拡大予防ガイドライン』とJBAより出された『バスケットボール活動再開に向けたガイドライン』を基に大阪府としてバスケットボールの大会を運営していくために必要な対応を踏まえた上で作成されたものである。作成にあたっては大阪中学校体育連盟バスケットボール部運営委員会組織において（以下「運営委員会」という）検討しまとめている。今後、大阪府の感染状況をふまえた上で大幅な変更も十分に考えられることとし、さらに今後の知見の集積及び他地域の感染状況を踏まえて、逐次見直すことがあり得るものとする。

尚、大会直前また大会中に感染者が出た場合は速やかに運営委員会を開き、協議の上適切な対応を講ずるとともに、全チームと速やかに連携を図る。

2. 大会開催にあたっての基本的な考え方について

4月1日開催の専門家会議提言での、IV（2）地域区分の考え方における、「感染未確認地域」の考え方に基づき、大阪府知事のイベント開催制限の方針に反しない形であれば、本ガイドラインを講じた上で実施することができる。また、その場合であっても当面の間、急激な感染拡大への備えと『3つの密』（※）を徹底的に回避するための対策をとることは必要になる

（※）以下のような条件を満たす必要がある

①3つの密（密閉、密集、密接）（※）の発生が原則想定されないこと

（人と人との間隔はできるだけ2mを目安に）

②大声での発声、歌唱や声援、又は近接した距離での会話等が原則想定されないこと

③その他、必要に応じて、適切な感染防止対策（入場者の制限や誘導、手指の消毒設備の設置、マスクの着用、室内の換気等）が講じられること

（※）これまで集団感染が確認された場に共通する「①換気の悪い密閉空間、②人が密集している、③近距離での会話や発声が行われる」という3つの条件、またこれ以外の場合であっても、人混みや近距離での会話、特に大きな声を出すことや歌うことにはリスクが存在すると考えられている。激しい呼吸や大きな声を伴う運動についても感染リスクがある可能性が指摘されている。

3. 部活動再開するにあたっての専門部としての基本方針

（1）安全最優先

生命・健康の安全を最優先とし、感染拡大のリスクを最大限に排除した選手・チーム、指導者、審判、運営スタッフの方々のご家族等が安全に活動できる環境を提供する。

（2）文部科学省から示された『学校の新しい生活様式（2020.5.22 ver1）』に則って通常の活動を再開する。

▶ 地域感染レベルが「レベル1」であることを基本とする。

※「レベル2」以上になった場合は、公式戦は行わない。活動については各市町村教育委員会または各学校長の判断にゆだねる。

(3) FIBA 再開ガイドライン

FIBA (国際バスケットボール連盟) より再開におけるガイドラインが公開されており、バスケットボール 競技の特性を考慮しながら作成する。

(4) 不当な扱いや差別などの禁止

感染状況で異なる活動差をもって選手やチームを不当に扱うことはせず、感染状況に起因する一切の差別や誹謗・中傷を許容しない。

4. プレー(活動)をするにあたっての感染予防に関する確認事項(大枠として)

- ①健康観察を実施していること (顧問・生徒・関係者など)
- ②施設・設備・用具を消毒していること (毎日)
- ③生徒の参加は任意であること。また対外試合については保護者の同意が得られていること
- ④参加する全員 (顧問・生徒・関係者) が感染予防に努めること

以上が守られない場合は、すべての対外的活動 (対外試合・公式戦・合同練習) は一切認められない。

5. 大会における具体的ガイドライン

(1) 事前の対応

主催者は、会場において感染防止対策に向けた準備を行うとともに、参加チームに対して感染防止のために選手・スタッフが遵守すべき事項を明確にして事前に連絡を行い協力を求める。運営委員会と各チームの代表者は事前・大会当日・事後にお互い連絡を取り合える環境をとること。尚、大会当日、事後も含めて以下の項目の実行が難しいと判断された場合は、運営委員会において開催が許可された状況下にあっても、大会の中止・延期を検討する。

※各個人が感染防止対策を講じること、仮に誰かが感染した場合でも、濃厚接触者を最小限にする感染防止対策を求める。

<参加同意書>

事前に参加同意書が提出されていること。参加同意書はコピーを作成し、原本は各地区委員長に提出、コピーについてはチーム代表者が保管すること。

<大会参加人数について>

各チームの大会参加人数は 15 名以内とする。ただし、3 年生に限ってはメンバー以外の参加を認める。15 名以上参加する場合は地区委員長に報告し、大会参加に係る確認書の名簿に必ず入れておくこと。

<大会参加に係る確認書>

中体連主催大会の際には、当日の体温、大会 2 週間前における症状の有無、質問欄へのチェックを行い、一覧表にして、チーム代表者は会場責任者に会場に入る際に提出すること。また会場責任者は地区委員長へ後日提出すること。(中央大会は競技委員長へ提出)

※大会当日の発熱、または質問項目にチェックがあった場合は大会参加を認めない。

※2 週間における症状の有無については、学校の登校に問題がなければ、大会参加を認める。

<連絡体制について>

運営委員会は参加同意書を当面の間（少なくとも3カ月）保管し、各チームの代表者と連絡をとれる体制をとる。また大会後に新型コロナウイルス感染症を発症した参加チーム関係者が出た場合は速やかに運営委員会に報告を行うこと。

<行動記録について>

大会中は可能な限り行動記録を記載すること。（感染者発生発覚の際の濃厚接触者特定に必要なため）

（2）会場における感染対策

<マスクの着用について>

- ・移動及び会場内ではマスクを着用する。試合前のウォームアップからマスクを外してもよい。
- ・オフィシャル時またはコートキーパー時はマスクを着用する。
- ・チームスタッフはマスクを着用する。
- ・ベンチメンバーは基本的にマスクを着用して、ベンチに入る。

<消毒作業について>

- ・全試合終了後、体育館については会場責任者の指示のもと、できる限り全チームが協力して消毒作業を行う。（イス、テーブル、試合球、ドアノブ、トイレ、階段の手すりなど）
- ・消毒液については各チームで準備する。
- ・更衣室や控え室については使用したチームが責任をもって消毒作業を行う。（その際の消毒液は使用したチームで準備する）
- ・公営体育館の場合は、体育館関係者の指示に従う。

<チームの移動について>

公共交通機関は利用してもよい。ただし利用する場合は、感染予防に十分配慮すること。

<受付について>

会場校は入り口または体育館の舞台等に大会参加に係る確認書を受け取る場所を明確に設置すること。

<試合会場について>

- ・観客については、中学校会場では無観客（保護者など）で実施する。公営の体育館の場合は、収容人数を考慮した上で、人数を制限して入場を認める。
- ・試合球は各試合ごとに交換し、それぞれ別の試合球を使用する。
- ・手指消毒液など、試合や練習で広く使用ができるように準備し、選手・スタッフ・チーム関係者、審判においては頻繁に手洗いを実施する。
- ・オフィシャル席やベンチ席についてはできる限り距離をとって配置する。
※ベンチエリアをはみ出して席を設置してもよい。
- ・試合会場（中学校会場）では、可能な限り参加校全ての顧問で最終的な消毒作業を協力して行う。
- ・スポーツ施設・用具器具、その他の備品も頻繁に消毒を行う。
- ・会場校では決められたところ以外は立ち入らないこと。

※バスケットボールの消毒に関しては、ボールそのものの劣化を招く可能性があるとしてされており、詳しくはお使いの各ボールメーカーの「お手入れ方法」に従って下さい

<顧問・審判・選手控室及び更衣室について>

- ・全てのドア及び窓を開け、3つの密が発生する環境を阻止し、ドアノブを介した接触感染を防ぐ。
- ・ドリンクを冷やすためのアイスボックス・イベントクーラーは使用しない。
- ・座席を設置する際に前後左右1.5～2m間隔をあけ、お互いが正面に座らないよう配慮する。
- ・更衣時間を設定するなど、密にならないように配慮する。

※詳細はチェックリストを参照

- ・選手控え室を使用する場合は、1チームに1室用意する。(1教室20人程度の使用を想定)
- ・室内またはスペース内で複数の利用者が触れると考えられる場所(ドアノブ、ロッカーの取手、テーブル、椅子等)については消毒する。
- ・換気扇を常に回し、2つ以上のドア、窓をできるだけ双方向常時開放して換気を行う。

<試合中における心がけ>

【選手】

- ・試合前後に審判や相手チームベンチ等への挨拶は行わない。
- ・試合前後または、試合中に握手、ハイタッチ、抱擁、円陣等は避ける。
- ・チームでまとまって声を出しての応援は禁止する。(ベンチ以外でも同様)

【スタッフ】

- ・ベンチエリアでの選手への指示等は密集しないように工夫する。
- ・大きな声を出しての指示はできるだけ避ける。

<選手への注意事項>

- ・タオルの共用はしないこと。
- ・ゴミは各チームで責任を持って持ち帰ること。

<掲示物について>

- ①各手洗い場、トイレに「手洗い・うがいの方法や励行」の案内
- ②マスク着用をお願い
- ③トイレの蓋を閉めて汚物を流すよう表示すること

以上3点の内容については、必ず掲示物を用意すること。

(3) 試合形式について

- ・ルールについては変更なし。
- ・試合時間は、1Qを7分とし、7-②-7-⑩-7-②-7とする。
- ・ハーフタイムでのフロアでアップは行わない
- ・試合間 消毒終了後から15分(4試合の場合は1,2試合目の間のみ)
- ・試合の組み方はできるだけチーム数を減らして開催する。(1会場に4チームを基準とする)

<1会場(1面)あたりの試合設定例>

1会場4チーム	9:00	1試合目	A-B	10:20	2試合目	C-D
	11:20	3試合目	空き	12:40	4試合目	1,2試合目の勝者

※3試合目の空き時間は協議の上決定する。

- ・オフィシャルについては基本帯同とする。

ただし、大会日程の確保が優先されるため、試合数については各地区で相談し調整する。

(4) 事後対応

万が一感染が発生した場合に備え、個人情報の取り扱いに十分注意しながら、大会当日の参加者から取得した書面や健康チェックシートを、保存期間（少なくとも3ヶ月）を明記した上で保管する。

また、大会終了後に、参加者から新型コロナウイルス感染症を発症したとの報告があった場合や地域の生活圏において感染拡大の可能性が報告された場合の対応方針については、大阪府中学校体育連盟と連携を図りながら対応するものとする。

(5) 大阪コロナ追跡システムの導入について

公営の体育館を使用する場合は、大会本部が独自にQRコードを作成し、大阪コロナ追跡システムを導入する。作成したQRコードについては受付にて、来場したすべての関係者に登録を依頼すること。

また作成したQRコードは必ず目立つ場所に掲示する。尚、公営の体育館施設で作成しているQRコードが事前にある場合でも大会本部は独自にQRコードを作成し、その際、来場者には双方の登録を促すようにすること。

※QRコードの作成については「大阪コロナ追跡システムの手引き」を参照すること

(6) その他

以上のことを実施しても感染リスクをゼロにすることはできない。主催者及び参加チームは、その点を理解した上で、大会等の実施や参加を判断し、関係者への周知を行う。

また、特に夏場においては、各諸室の窓、ドアの開放、参加者全員にマスク着用を義務化することにより、熱中症を発症するリスクが高まるため、こまめな水分補給を心掛けること。

6. 大阪中体連作成チェックリスト

① 全般的な事項

- 感染防止のため専門部が実施すべき事項や参加者が遵守すべき事項をあらかじめ整理し、チェックリスト化したものを適切な場所（会場の受付場所等）に掲示すること
- 各事項がきちんと遵守されているか会場内を定期的に巡回・確認すること
- 障がいのある方や高齢の方などの特性にも配慮すること
- 万が一感染が発生した場合に備え、個人情報の取扱いに十分注意しながら、参加当日に参加者（参加校）より提出を求めた書面について、保存期間（少なくとも3か月以上）を定めて保存しておくこと
- 大会後に参加者から新型コロナウイルス感染症を発症したとの報告があった場合や、地域の生活圏において感染拡大の可能性が報告された場合の対応方針について、使用施設等とあらかじめ検討しておくこと

② 主催大会参加募集時の対応（同意書の内容）

- 参加者が以下の事項に該当する場合は、参加の見合わせを求めること（大会当日に書面で確認を行う）
 - ・体調がよくない場合（例:発熱・咳・咽頭痛などの症状がある場合）
 - ・同居家族や身近な知人に感染が疑われる方がいる場合
 - ・過去14日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触がある場合

- マスクを持参すること（参加受付時や着替え時等のスポーツを行っていない際や会話をする際にはマスクを着用すること）
- こまめな手洗い、アルコール等による手指消毒を実施すること
- 他の参加者、大会関係者等との距離（できるだけ2m以上）を確保すること（障がいのある方の誘導や介助を行う場合を除く）
- 大会中に大きな声で会話、応援等をしないこと
- 感染防止のために専門部が決めたその他の措置の遵守、専門部の指示に従うこと
- 大会終了後2週間以内に新型コロナウイルス感染症を発症した場合は、専門部に対して速やかに濃厚接触者の有無等について報告すること

③ 当日の参加受付時の対応（バスケットボールの場合は、顧問同士のみ）

- 受付窓口には、可能な限り手指消毒剤を設置すること
- 発熱や軽度であっても咳・咽頭痛などの症状がある人は入場しないように呼び掛けること（状況によっては、発熱者を体温計などで特定し入場を制限することもある）
- 人と人が対面する場所は、アクリル板、透明ビニールカーテンなどで遮蔽するなどの工夫をすること
- 参加者が距離をにおいて並べるように目印の設置等を行うこと
- 受付を行うスタッフには、マスクを着用させること
- インターネットやスマートフォンを使った電子的な受付の一層の普及を図り、受付場所での書面の記入や現金の授受等を可能な限り避けるようにすること
- 当日の受付時は、混雑を極力避ける工夫を行うこと
- 参加者から以下の事項を記載した書面の提出を求めること（※）
 - ・ 氏名、年齢、住所、連絡先（電話番号）※個人情報の取扱いに十分注意する
 - ・ 大会当日の体温
 - ・ 大会前2週間における以下の事項の有無
 平熱を超える発熱（おおむね 37 度 5 分以上）、咳（せき）、のどの痛みなど風邪の症状、だるさ（倦怠（けんたい）感）、息苦しさ（呼吸困難）、体が重く感じる、疲れやすい等、新型コロナウイルス感染症陽性とされた者との濃厚接触の有無、同居家族や身近な知人に感染が疑われる方がいる場合、過去 14 日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触がある場合

④ 主催大会参加者への対応（大会当日）

- 参加者がマスクを準備しているか確認すること
- 参加の受付、着替え、表彰式等の運動・スポーツを行っていない間については、マスクの着用を求めること（運動・スポーツ中のマスクの着用は参加者等の判断によるものとする）
- 大会の前後のミーティングや懇親会等においても、三つの密を避けること
- 会話時にマスクを着用するなどの感染防止対策に十分に配慮すること

⑤ 専門部が準備すべき事項の対応（大会当日）

- 手洗い場には石鹸（ポンプ型が望ましい）を用意すること
- 「手洗いは 30 秒以上」等の掲示をすること
- 大会メイン会場から遠く離れた場所で選手を招集（待機）させる場合は、その場所にできるだけ手洗い場を確保すること

- 手洗い後に手を拭くためのペーパータオル（使い捨て）を必要に応じて用意すること（参加者にマイタオルの持参を求めても良い。布タオルや手指を乾燥させる設備については使用しないようにすること）
- 手洗いが難しい場合は、アルコール等の手指消毒剤を用意すること

【更衣室・待機室など】

- 広さにはゆとりを持たせ、他の参加者と密になることを避けること（障がいのある方の介助を行う場合を除く）
- ゆとりを持たせることが難しい場合は、一度に入室する参加者の数を制限する等の措置を講じること
- 室内又はスペース内で複数の参加者が触れると考えられる場所（ドアノブ、ロッカーの取手、テーブル、イス等）については、こまめに消毒すること
- 換気扇を常に回す、換気用の小窓をあける等、換気に配慮すること
- スタッフが使用する際は、入退室の前後に手洗いをする

【洗面所】

- トイレ内の複数の参加者が触れると考えられる場所（ドアノブ、水洗トイレのレバー等）については、こまめに消毒すること
- トイレの蓋を閉めて汚物を流すよう表示すること
- 手洗い場には石鹸（ポンプ型が望ましい）を用意すること
- 「手洗いは 30 秒以上」等の掲示をすること
- 手洗い後に手を拭くためのペーパータオル（使い捨て）を用意すること（参加者にマイタオルの持参を求めても良い。布タオルや手指を乾燥させる設備については使用しないようにすること）

【飲食物の提供時】

- 参加者が飲食物を手にする前に、手洗い、手指消毒を行うよう声を掛けること
- スポーツドリンク等の飲料については、ペットボトル・ビン・缶や使い捨ての紙コップで提供すること
- 食品については、提供方法を工夫すること
- 飲食物を取り扱うスタッフにはマスクを着用させること

【観客の管理】（※）

- 観客も参加させる場合には、観客同士が密な状態とならないよう、必要に応じ、あらかじめ観客席の数を減らすなどの対応をとること
- 観客も参加させる場合には、感染者が発生した時に備え、大阪コロナ追跡システム（QR コード）を活用すること
- 大声での声援を送らないことや会話を控えること
- 会話をする場合にはマスクを着用すること等の留意事項を周知すること

※観客の参加の可否等について

- 観客については、無観客開催を含めて検討し、いかなる場合においても事前の周知が必須。
- 大阪府の HP から QR コードを取得し、印刷して会場の入り口等に掲示する

【大会会場】

- 大会を室内で実施する場合には、換気の悪い密閉空間とならないよう、十分な換気を行うこと
- 換気設備を適切に運転すること
- 定期的に窓を開け外気を取り入れる等の換気を行うこと

【ゴミの廃棄】

- 鼻水、唾液などが付いたごみは、ビニール袋に入れて密閉して縛り、ゴミを回収する際は、マスクや手袋を着用すること。マスクや手袋を脱いだ後は、必ず石鹸と流水で手を洗い、手指消毒すること